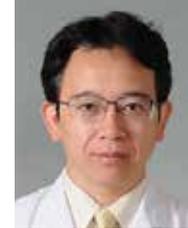


比較的広範囲の分層メッシュ植皮術後の創部に対するプロントザンの使用経験

外傷や手術による皮膚欠損創において創閉鎖までの期間短縮を図るため植皮術を行うことがあるが、術後の管理方法は施設によって様々である。本症例では外傷による比較的広範囲の下腿皮膚欠損創に対して分層メッシュ植皮術を行った。術後7日目から、創洗浄時の疼痛軽減、創部の清浄化を図る目的でプロントザン治療で創部管理を行った。症例の経過報告と合わせて、分層メッシュ植皮術後の創部に対するプロントザンの有用性を考察する。



前岡尚憲 先生
福岡大学病院形成外科



高木誠司 先生
福岡大学病院形成外科



石橋卓也 先生
同救命救急センター

Case Study

60歳代／男性／左足関節開放骨折Gustilo分類typeⅢA



①
分層植皮術後 4日目

屋外で作業中、油圧ショベルが左下腿に乗り上げて受傷し、当院救命救急センターへ搬送となった。左足関節開放骨折(Gustilo分類 type Ⅲ A)の診断で、受傷当日に救命科でデブリードマン、創外固定を施行された。その後、左下腿の皮膚壊死を認め、当科紹介となった。

受傷から18日目に、救命科・当科合同でプレート固定術+デブリードマン、分層植皮術(10/1000 inch, 3倍メッシュ)を施行した。

術後4日目(写真①)に初回ドレッシング交換を行い、植皮の生着は良好であったが、生理食塩水と綿棒での創洗浄時に、植皮片のメッシュ間からの出血や、患者から強い疼痛の訴えがみられた。

術後7日目(写真②)、一部植皮片の融解がみられ、黄色の膿苔の付着を認めた。創部培養からはCorynebacterium species(2+)が検出された。血液検査所見で炎症反応上昇は認めなかった。

今後感染を合併する可能性を危惧し、創洗浄時の疼痛を軽減しつつ、創部の清浄化を図る目的で、プロントザンを使用する方針とした。

プロントザン創傷洗浄用ソリューション(以下、プロントザンソリューションと略す)を浸したガーゼを15分留置し、創洗浄を行った後に、プロントザン創傷用ゲル(以下、プロントザンゲルと略す)を創面に貼付し、その上にガーゼをあてた。プロントザン使用開



②
分層植皮術後 7日目

TIPS 1
創洗浄時の疼痛軽減、創部の清浄化を図る目的でプロントザン治療開始



③
分層植皮術後 9日目

始後の処置は隔日で行った。

プロントザン使用3日目(写真③)には膿苔は消失していた。また創洗浄時に創部からの出血や患者から疼痛の訴えはみられなかった。

ドレッシング交換を行う際は、乾燥傾向となった創部にガーゼが固着することがあるが、処置を行う前にあらかじめプロントザンソリューションで湿潤させておき、処置時に創部を損傷することなくガーゼを剥離するよう工夫した。

プロントザン使用9日目(写真④)の創部培養で *Corynebacterium species* は 2+

から少数へ減少していた。

その後、感染を合併することなく経過し、プロントザン使用 19 日目(写真⑤)にはほぼ上皮化し、プロペト外用に変更した。

術後 31 日目、リハビリテーション目的に他院へ転院となった。

考察

本症例は、足関節開放骨折受傷後に下腿の皮膚壊死を合併したため、デブリードマンを行い、一期的に分層植皮術を施行した。

術後7日目に、一部植皮片の融解、黄色の膿苔の付着を認め、創部培養からは

Corynebacterium species (2+) が検出された。今後感染を合併する可能性を危惧したが、初回ドレッシング交換で生理食塩水と綿棒を使用した創洗浄時に、植皮片のメッシュ間からの出血や患者から強い疼痛の訴えがあり、同様の方法では十分な創洗浄は難しいと考え、プロントザンを使用する方針とした。

通常は、プロントザンソリューションを浸したガーゼを 15 分留置し、創洗浄後に、プロントザンゲルを塗布し、ポリウレタンフォーム等の二次ドレッシングで被覆する方法が推奨されているが、創傷治癒が進む過程で創部が乾燥傾向となり、ドレッシングが固着することが問題となると思われる。そのため、ドレッシング交換を行う際に、予めプロントザンソリューションによる浸漬を行い、ドレッシングの固着を解除し、ドレッシング剥離時の創部の損傷を予防した。

プロントザン使用3日目には膿苔は消失し、プロントザン使用9日目の創部培養で *Corynebacterium species* は 2+ から少数へ減少を認めた。また、創洗浄時に創部からの出血や患者から疼痛の訴えもみられなかった。その後、感染を合併することなく、上皮化を得ることができた。

分層植皮術後の創部において、時に植皮片の擦れを恐れて、十分に創部を洗浄できないこともあると思われる。

本症例のように、比較的広範囲な分層植皮術後の創部に対して、創部の清浄化を図る目的で、プロントザンの使用は有用と考える。

また、本症例では、プロントザンによる創洗浄時に患者から疼痛の訴えはなかったことから、生理食塩水や微温湯等、従来の創洗浄と比較し、創洗浄時の疼痛が少ない点も有用と考えられた。



4

分層植皮術後 15 日目



5

分層植皮術後 25 日目

TIPS 2

ドレッシング交換の際に、乾燥傾向のガーゼには、処置の前にプロントザンソリューションを浸漬しておくことで創部への固着を解除し、二次損傷を予防する。

創傷衛生/ウインド・ハイジーンの実践 プロントザン

プロントザン 創傷用ゲル (容量30g) 保険適用 ●入数/箱: 20 ●製品番号: 400599
機能区分: 在宅処置用 008 皮膚欠損用創傷被覆材(2)皮下組織に至る創傷用 ②異形型
病院処置用 101 皮膚欠損用創傷被覆材(2)皮下組織に至る創傷用 ②異形型
処方用 012 皮膚欠損用創傷被覆材(2)皮下組織に至る創傷用 ②異形型
保険償還価格: 1g当たり35円 (2021年4月現在)

プロントザン 創傷洗浄用ソリューション (350ml) ●入数/箱: 10 ●製品番号: 400597
(創傷用ゲルと組み合わせて使用するオプション品となります。) (1000ml) ●入数/箱: 10 ●製品番号: 400598



販売名: プロントザン
承認番号: 23000BZ100005000

※製品のご使用にあたっては、製品に付属の添付文書を必ずお読みください。



プロントザンに関する
詳しい情報はこちらから
opm.bbraun-japan.com

CAS-WM013-1 2022.07.SG